

第18・19期新旧合同理事会議事録

日時 昭和51年7月22日(木) 14.00~15.00
 場所 気象庁観測部会議室
 出席者 磯野, 小平, 浅井, 朝倉, 内田, 門脇, 河村,
 岸保, 杉本, 立平, 股野, 松本(新理事),
 大井, 川村, 北川, 二宮, 野本(旧理事),
 藤田監事.

報告

〔庶務〕

1. 7月6日, 日産科学振興財団から第3回日産学術研究助成候補者推薦依頼がきた(メ切11月30日).
2. 7月21日, 東レ科学振興会から昭和51年度科学技術賞ならびに研究助成候補者推薦依頼がきた(メ切11月15日).
3. 7月21日, 日本学術会議安全工学研究連絡委員会委員長から都市・地域計画連絡会(安全工学研究連絡委員会, 都市・地域計画研究分科会)付置の小委員会委員候補者の推薦依頼がきた(8月31日までに推薦).
4. 7月21日, 第12回宇宙技術及び科学の国際シンポジウム組織委員会委員長から案内がきた(昭和52年5月16日~5月21日. 発表論文メ切51年11月30日).

〔気象集誌〕

次期理事会への要望事項

1. 今後ページチャージの額が増大することのないよう努力されたい.
2. 研究機関, 大学で独自の刊行物をもつところが多くない. 気象学会員が研究成果を circulation の比較的良好な気象集誌に集中して発表するように努力願いたい.

3. 従来, レフリー段階で, 時間のかかりすぎるものがあつたが, 今後この段階での, スピードアップについて一層の努力が必要である.

4. 最近外国(インド)からのページチャージ支払い不能が1件あつた. 一部外国からの投稿には注意を要する.

〔講演企画〕

1. 風のシンポジウムは, 気象学会が当番幹事となつた.
2. 夏期大学は, 120名の受講申込者があり, 財政的に採算が合うことになった.

〔長期計画〕

別紙の“大学における気象教育の現状”についてアンケートをまとめた結果の報告が詳細に述べられた.

〔天気〕

7月号, 8月号の目次について報告, 遅れを取り戻しつつある.

〔学術用語集〕

かねてから懸案の, 小辞典の必要性を申送ることとする.

〔奨励金〕

第16期発足当時は, 応募者が多かつたが, 第18期には少なかつた. 多く応募していただくようお願いしたい.

議題・引継ぎ事項

6月28日の第18期第17回常任理事会の議事録の確認.

承認事項

小山 登ほか16名の入会を承認.

原稿締切り日を守って下さい

“天気”は, 原則としてその月の末日に発行されます. そのためには, 発行前月の中頃より, ページ数の多いものから印刷を始め, 半ページ・1ページ位の小さな記事も, 前月の始めには揃える必要があります. 本号がお手元に届く頃ですと, 既に10月号の編集が大詰めに入り, 11月号の原稿もそろそろ集まり始めているのです. もし, これから10月号の原稿が来ますと, その長さにもよりますが, その為に発行が遅れる可能性もあります.

そこで, 編集委員会では, 原稿の締切りを発行前月の5日(11月号の場合, 10月5日)としました. “学会だより”などでその号に入れなければならないが, どうしても期日には原稿が間に合わない, という場合は, その長さ, 内容, 投稿予定日など, 前もってお知らせ下さい. ただし, その場合, 多少校正もれが出てしまうかもしれませんが, その点をご容赦下さい. 原則として, 締切り日に遅れた原稿は, 次号にまわす事に致します.

今後とも, 発行日を遅らせる事のないよう, 編集委員一同昼夜の別なく努力致しますので, よろしくご協力下さい.

(“天気”編集委員会)